

事業所における自己評価結果(公表)

児童発達支援

公表: 令和3年3月29日

事業所名 ショーンズハウス

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○			訓練室とリミックで使用する部屋 個別学習専用の部屋があります。
	2	職員の配置数は適切である	○			
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○		角にはクッションガード。 フロアにはマットを敷いています。イラストで表示し、子どもたちにわかりやすくしている。	イラストやカードを貼りつけ表示することにより、子どもが視覚的に理解しやすい環境にしています。角にはクッションガードをし、フロアにはクッションマットを敷いています。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○		掃除消毒を徹底して行っている。	毎日、掃除・消毒・空調温度調節を徹底して行い記録しています。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○			本計画、モニタリング、個別支援計画、サービス担当者会議に参加した情報を全スタッフで共有している。会議等でひやりはつとの共有を行っています。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○			年に1、2回ご意見を頂き、その内容を職員間で共有し業務改善につなげています。
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○			当社のホームページにて公開しています。
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		今後は第三者評価を試みることを視野に入れていきます。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○			外部研修を中心に内部研修は2か月に1回は行っています。
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○		面談、聞き取りの際は時間をかけている。	相談支援事業所と連携し作成しています。
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○			
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○			
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○		全スタッフで内容を共有し支援にあたっている。	定期的にニーズ等聞き取りをしています。
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		講師と職員で連携し行っている。	音楽療法・ペイドス学習・造形教室・英会話など世情に合わせ開催しています。
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○			各教室の講師と職員で話し合い、内容を工夫しています。
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	○			

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標	
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○			支援開始前には必ずミーティングを行っています。
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○			翌朝行っています。 (緊急時は当日行っています。)
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		支援経過報告書を作成している。	
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○		相談支援事業所とも連携している。	6か月に1回は必ず見直しをしています。
関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		キーパーソンの職員が参加する。	児発管と児童指導員の中から、その子どもに適した職員が参加しています。
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○			
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	○			
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	○			
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		相談支援事業所とも連携している。	情報を共有させて頂いています。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		相談支援事業所とも連携している。	情報を共有させて頂いています。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○			
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	○			コロナ禍になるまでは交流がありました。時期をみて今後も検討します。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している		○		リモート会議に参加できるよう調整をしています。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		伝えやすい環境を意識している。	送迎時や電話で児童の様子をお伝えしご家庭での様子等聞かせて頂くことにより、細かなところまで情報を共有することができ、理解されている保護者が多い。
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	○			マニュアル資料を参考に、必要に応じて助言をする等の支援をさせていただいています。
32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○			契約時に詳しく説明をさせて頂いています。	
33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○				

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	34 定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		日頃から児童の様子を伺うようにしています。	相談支援事業所とも連携し迅速に対応させて頂いています。
	35 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○			現在コロナの影響で休止になっていますが、バス遠足の時などで交流する機会があります。今後も状況に応じて検討をします。
	36 子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○			相談支援事業所とも連携し迅速に対応させて頂いています。
	37 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		写真つきで活動の様子が分かりやすくしている。	ショーンス新聞を毎月発行し情報発信しています。Facebookにも毎月1回の投稿を行っています。
	38 個人情報の取扱いに十分注意している	○			契約時から契約終了後も注意しています。
	39 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○			
	40 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○			地域の祭りに参加、餅つきやバス遠足の時などに交流。
非常時等の対応	41 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○			感染症に関する対策や情報をお手紙で配布するなど、周知いただいています。
	42 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		消防訓練など。	毎年3月、9月で行っています。
	43 事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○			契約時と定期的なアセスメントの際に必ず確認をしています。
	44 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○			
	45 ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		ファイルし管理している。	会議時、情報を共有しています。
	46 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○			外部内部の研修を行っています。
	47 どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	○			身体拘束を行う場合について組織的に決定しているが、現在まで身体拘束を必要とする事案がなかったため支援計画に記載していません。

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。